

イントロ

おはようございます。今日は本当に嬉しい日です。MSCC 仙台の最初の集まり、そして今日はイースターです。イースターとは、クリスチャンがイエスの復活を祝う日なんです。今、一緒に集まっている時間ですが、共に聖書を学ぶ時間です。クリスチャンは、聖書は神の言葉であると信じています。私たちは、神様は存在しているお方だと信じています。そして、この存在している神は唯一の神であると信じています。そして、神様はこの書物を通して、神様ご自身について、私たちについて、この世界について、そして救いについて、私たちに知ってほしいことを全て明らかにしてくださいました。ですから、毎週、私たちが集まるとき、神の言葉、聖書を学ぶことを通して、神様が私たちに何を語っているかを一緒に見ていきたいと思えます。

そこで今日は、第一コリント人への手紙15章1~9節を学びたいと思えます。聖書箇所は、今日お入りになった時にいただいた週報に記されてあります。ぜひ一緒に読んでください。コリント人への手紙は、使徒のパウロという人が古代のコリントという街の教会に宛てて書いた手紙です。書かれたのはAD紀元後53~55年の間です。この教会には様々な問題が起きていて、パウロはそれらの問題を解決するためにこの手紙を書きました。教会の問題の一つは、「復活はない」と言っている人がいたということでした（

: 12)。パウロはこの誤った情報を正すために、まず、イエス・キリストが死者の中からよみがえったことを立証(りっしょう)しています。

I will read the passage in Japanese, so if you are an English speaker, please follow along in English in the bulletin.

兄弟たち。私があなたがたに宣べ伝えた福音を、改めて知らせます。あなたがたはその福音を受け入れ、その福音によって立っているのです。² 私がどのようなことばで福音を伝えたか、あなたがたがしっかりと覚えているなら、この福音によって救われます。そうでなければ、あなたがたが信じたことは無駄になってしまいます。³ 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、⁴ また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、⁵ また、ケファに現れ、それから十二弟子に現れたことです。⁶ その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中にはすでに眠った人も何人かいますが、大多数は今なお生き残っています。⁷ その後、キリストはヤコブに現れ、それからすべての使徒たちに現れました。⁸ そして最後に、月足らずで生まれた者のような私にも現れてくださいました。

今日は、「キリスト教とは何か？何に基(もと)づいて出来上がったのか？どのように始まったのか？」という質問に答えていきたいと思えます。キリスト教は世界の宗教の中でもとても独特、ユニークだと言われているのは、道徳的な教えから始まった考えではないからです。キリスト教には確かに教えや道徳の基準もあります。しかし、キリスト教はある歴史的な出来事から始まりました。キリスト教は、イエス・キリストの死、埋葬、復活の出来事から始まったのです。

実際、キリスト教のすべては、イエスの死、埋葬、復活にかかっています。もし、この出来事が歴史的な事実として起こらなかったとしたら、キリスト教は真実ではない。私たちの人生においても利益は一切ありません。今読んだこの箇所では、パウロはコリントの教会にこの出来事の重要性を思い出させているのです。

“兄弟たち。私があなた方に述べ伝えた福音を、改めて知らせます。「福音」。「福音」とは何でしょうか？新約聖書は元々ギリシャ語で書かれていて、「福音」と訳されているこの言葉は、もともと「良い知らせ」を意味する一般的な言葉でした。”つまり、パウロは彼らに良い知らせを伝えているのです。キリスト教とは、ある出来事を喜びを持って他の人に知らせるといふこのプロセスで成(な)り立っているのです。その歴史的な出来事とは、イエス・キリストの死、埋葬、復活です。

これがキリスト教の土台です。では、パウロが言うように、これがキリスト教の最も重要な部分であるとすれば、クリスチャンとはなんなのか。どんな人でしょうか？クリスチャンとは、イエス様の死、埋葬、復活が本当に起きたと信じ、それによって救われている人達なんです。そこで

今日は、この2つの質問を見ていきたいと思います。(1) 福音とは何か？そして、(2) クリスマンとはどんな人か？そして、もしあなたがクリスマンでないなら、今日クリスマンになるように説得(せつとく)したいと思っています。

福音はなぜ良い知らせなのか？

歴史上にはたくさんの重要な出来事があります。しかし、そのすべてが同じように私たちの人生に影響を与えるわけではありません。では、なぜ、この出来事だけがこんなに重要なのでしょうか。言い方を変えれば、なぜ福音は私たちにとって良い知らせなのでしょう？それを理解するために、福音とは何かを深く考えてみるべきだと思います。

Christ died キリストは死なれたこと

Paul says, "That Christ died for our sins in accordance with the Scriptures." キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたとパウロは言っています。

まず、この「キリスト」という言葉。"キリスト"とは何か？キリストとは、「油を注がれた者」という意味です。"油注ぎ"とは、古代に行われていた伝統で、特定の仕事や役割に選ばれたことを表すものでした。キリストとは、神に選ばれて民の救い主となった人のことです。キリスト教では、イエス様がこのキリストであると信じています。これは、イエス様が死からよみがえられたからです。

しかし、それは何を意味するのでしょうか？パウロは「私たちの罪のために死んだ」と言っていますが、これはどういう意味でしょうか？"私たちの罪のために死なれたこと？イエスはユダヤ人で、紀元前(きげんぜん)5年か4年頃に生まれ、紀元後(きげんご)30年か33年に十字架に釘付け(くぎつけ)られて処刑(しよけい)されるまで生きました。イエスは歴史上の存在の人物でした。そして、彼は本当にエルサレムの外で十字架につけられ、本当に死んだのです。しかし、誰もが死ぬのですから、イエス様の死がそれほど特別なものなのでしょうか？

パウロが「私たちの罪のために死んだ」と言っているのは、イエスの死は身代わりの死だったと言っているのです。どういうことでしょうか？それは、イエス様は死なれたとき、私たちの罪に値(あた)いする罰を支払われたということです。さて、日本語で「罪」という言葉は、犯罪者の行動を意味しますね。だから、「私は罪を犯したことはないし、大きな犯罪を犯したこともないから関係ない」と思う人もいるかもしれません。”

けれども、社会福祉士の経験をお持ちの方や、自分の国と違う文化の中で生きてきた経験をお持ちの方はよくご存知なことだと思いますが、言葉というものは文脈(ぶんみゃく)によって意味が変わってきます。私たちがパウロが言っていることにきちんと耳を傾けるには、自分の文脈から離れて、聖書の文脈に入っていかなければなりません。聖書に出てくる「罪」という言葉は、誰かが神様に敵対して行う行動を意味しています。聖書では、神は本当に存在していると書かれています。唯一の神様です。神は完全に善良(ぜんりょう)であり、公正の神です。完璧な神です。力があります。彼はすべてのものの創造主であり、全ての創造物を支えています。ですから、こ

の世界とそこに住むすべての人々は、神様の所有物なのです。そして、この神様は、私たちに生きる基準も与えているのです。その基準は、神様ご自身の性格と一致しています。神は、私たちの思考(しこう)、感情、言葉、行動のすべてを持って自己犠牲(じこぎせい)的な愛の中で生きることを望んでおられます。

そこで質問ですが、あなたは自分勝手な考えを持ったことはありませんか？自己中心的な欲望(よくぼう)を持ったことはありませんか？誰かを傷つけるようなことを言ってしまったことはありませんか？

ご両親の方々に一言です。もしあなたが自分の子供に対して忍耐を持てなくなったことあるのであれば、それは自分の方が子供より価値があると思う罪が心の奥底にあるからです。もし誰かに対してイライラしたり、恨(うら)んだりしたことがあれば、それはその人が存在しなければ自分の人生は楽になると考えていることと同じです。恨み(うらみ)は、殺人を引き起こす感情と同じです。自分が誰かさんよりも重要だと一瞬(いっしゅん)でも思ったことはありますか？

このような考えや行動は、神様の基準によると私たちが罪人であるということを示しています。聖書によれば、私たち全員が神様の前で罪を犯して、罰を受けるべきです。そして、聖書は、神様は必ずすべての罪を正しく罰すると約束しています。では、どうすればいいのでしょうか？

良い知らせはあります。キリストであるイエス様は、私たちの罪のために死んでくださいました。つまり、イエス様が十字架にかかったとき、私たちが神から受けるべき罰を代わりに受けてくださったのです。それが、イエス様が私たちの罪のために死んでくださったということです。

彼が葬られたこと

次のフレーズに注目してください。「彼は葬られた」。"聖書の中のイエスの死に関する記述(きじゅつ)を読むと、4つとも、イエスが葬られたことを含めていることがわかります。イエス様が葬られた場所はわかっていました。それはエルサレムにありました。ここで重要なのは、イエス様が葬られた理由が少なくとも2つあるということです。

一つ目は、死んだ人しか葬られないということです。イエス様は本当に死んでいました。プロの処刑人(しょけいにん)であったローマ兵のもとでイエスは十字架にかけられました。槍(やり)で心臓も刺(さ)されました。そして、墓に葬られました。そして、金曜日の夜から日曜日の朝まで、その墓の中に置かれていました。死んでいなければ復活できないので、イエス様が死んだことを証明することは重要です。

そして(2番目です)、復活を反証(はんしょう)するためには死体を見せるのがまず最初のステップなので、イエスが葬られたということはとても重要です。しかし、日曜日の朝、イエス様の弟子たちが、イエス様の体に香辛料(こうしんりょう)を塗るために墓を訪(おとず)れたと

き、彼らは思いがけなかったことを見ました。死体がなかったのです。墓は空(から)だったのです。そして、生きているイエス様が彼らの前に現れたのです。

That he was raised on the third day 3日目によみがえられたこと

次に、3日目にイエス様が死からよみがえられました。クリスチャンが日曜日に集まるのは、イエス様が日曜日の朝に死からよみがえられたからです。金曜日に死んで葬られ、土曜日に墓の中で過ごし、3日目の日曜日に死者の中からよみがえられました。

しかし、どうやって死から復活したとわかるのでしょうか？まず、その人が葬られていた場所が空になるの見なければなりません。そして、死んだ人が再び生き返った姿を見なければなりません。でも まさにその通りになったのです。

That he appeared 現れたこと

パウロはコリントの教会に、イエス様はご自身の復活をきちんと証明したことを思い出させます。イエス様は、いろんな時にいろんな場所で、多くの人々に現れました。パウロが「現れた」と言ったのは、霊や幽霊(ゆうれい)が一瞬人々の前に現れたことを言っているのではありません。イエス様は、復活してから40日間、弟子たちと一緒に過ごしました。弟子たちと一緒に食事をしました。彼らのために朝ごはんを作りました。手足や脇腹(わきばら)の穴・傷を見せてくれました。このイエス様は死んだ人であったが、死からよみがえったのです。

最も注目すべき点は、イエス様が一度に500人以上の人に現れたとパウロが言っていることです。法廷(ほうてい)では目撃者(もくげきしゃ)の証言(しょうげん)が必要ですよね。しかし、目撃者の証言は信頼できないことがあります。矛盾(むじゅん)していることもあります。しかし、500人もの人々が全く同じことを言っているのであれば、歴史的事実が証明されたことになります。

パウロがこの手紙を書いたのは紀元後(きげんご)53年頃。イエス様が死なれたのは、紀元後(きげんご)33年。彼の死からわずか20年しか経(た)ってなかったのです。パウロは、この数百人の人々の目撃証言を訴(うった)えています。彼らのうち何人かは死んでしまいましたが、ほとんどの人はまだ生きていると言うのです。彼らに聞いて、真実を確かめなさいとパウロは言っているわけです。

古代の人々は、決して知性が低いわけではなかった。何でもかんでも言われたことを信じたわけではありません。イエス様が死からよみがえられたことを、多くの証拠で納得(なっとく)させなければなりませんでした。そして、この数百人の人々は、死んだ後に生きているイエス様を見たからこそ、納得(なっとく)したのです。これが、今日、キリスト教が世界宗教として存在している理由です。すべてはイエス様の復活にかかっています。もし、イエス様がよみがえらなかつたら、イエス様は普通の人間として死んだだけであり、その死は私たちの罪の身代わりの死にはなりません。

13～17節を読んで続けると、パウロはさらにこう言っています。お読みします。

もし死者の復活がないとしたら、キリストもよみがえらなかったでしょう。¹⁴ そして、キリストがよみがえらなかったとしたら、私たちの宣教は空しく（虚しく）、あなたがたの信仰も空しいものとなります。¹⁵ 私たちは神についての偽証人ということにさえなります。なぜなら、かりに死者がよみがえらないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかったはずなのに、私たちは神がキリストをよみがえらせたと言って、神に逆らう証言をしたことになるからです。¹⁶ もし死者がよみがえらないとしたら、キリストもよみがえらなかったでしょう。¹⁷ そして、もしキリストがよみがえらなかったとしたら、あなたがたの信仰は空しく、あなたがたは今もなお自分の罪の中にいます。

もし、イエスが死からよみがえっていないのであれば、どうかキリスト教を信じないでほしい。もし、イエスが死からよみがえらなかったという説得力のある証拠を見つけたら、私はクリスチャンであることをやめ、別の仕事につきます。そして、自分の好きなように生きていきます。

しかし、イエスは本当に死からよみがえりました。だからこそ、彼はキリストなのです。だからこそ、この福音を信じれば、あなたの罪の罰が支払われ、あなたは神と和解できるのです。このような事実は本当であれば、クリスチャンとはどんな人でしょう？

では、クリスチャンとは何か？

クリスチャンであるとはどういうことなのか。これは、クリスチャンが絶（た）えず自分自身に問いかけるべき質問です。そして、もしあなたがクリスチャンではないけれど、キリスト教について知りたいと思っているのであれば、これは自分にとって大事な質問だと思います。

1～3節に戻ってみましょう。

兄弟たち。私があるがたに宣べ伝えた福音を、改めて知らせます。あなたがたはその福音を受け入れ、その福音によって立っているのです。² 私がどのようなことばで福音を伝えたか、あなたがたがしっかり覚えているなら、この福音によって救われます。そうでなければ、あなたがたが信じたことは無駄になってしまいます。³ 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです

パウロは、「あなたが無駄に信じていたのでなければ」と教会に注意しています。あなたがたは、無駄な信仰を持つことができることを知っていましたか？ イエス様が自分の罪のために死んでくださったと信じていても、救われないことがあるのです。私はそのような信仰を持ちたくありません。では、それは何でしょうか？ イエス様を信じているのに救われないというのはどういうことなのでしょう？

真の信仰とは、福音というものがこの世の中で、最も重要な真理として受け取り、その福音に立ち、福音を固く（かたく）守る信仰です。イエス様が私たちの罪のために死なれ、死者の中から

よみがえられたという良い知らせは、自分にとって最も大切な真実であるべきです。それは私たちの唯一の希望であるべきです。それは、人生が絶対的に恐ろしいものであっても、私たちに喜びと励ましを与えるものであるべきです。これ以外のものは、真の信仰ではありません。なぜでしょうか？

この章でパウロは、クリスチャンが持つ唯一の希望は、この人生がすべてではないということだと説明しています。しかし、もし私たちが死んだ後、私たちも復活するのであれば、私たちには希望があります。この人生のすべてに意味があるという希望を持てるのです。神様のために生きようとする私たちのすべての努力は、永遠に重要な意味を持ちます。そして、いずれ私たちは復活した新しい体で、新しい完全な世界で神とともに永遠に生きるのです。罪がない場所で。悲しみもない。悪もない。神様が私を完璧にしてくださり、私も罪を犯さなくなる、いつも親切になれる日が来るんですよ。私はそれを待ち望んでいます。それは復活を通して約束されています。そして、私たち自身の復活が保証され、この復活が来ると確信を持って言える唯一の理由は、イエス様が私たちの罪のために死なれ、葬られ、死者の中から復活されたからです。イエス様は最初によみがえられた方です。そして、イエス様がよみがえったので、イエス様を信じるなら、あなたもよみがえるのです。

もしあなたがこのことを信じていて、それがあなたにとって最も重要な真理であれば、あなたの信仰はほんものであり、あなたはそれによって救われます。

これでそろそろおわりたいと思います。

キリスト教は、実在の神、唯一無二の神についての教えです。私たちの歴史、地球に本当に入っ
てこられ、人間の想像の中でも最悪の苦しみを経験したにもかかわらず、道徳(どうとく)的に
完璧な人生を送り、残酷な(ざんこく)不法(ふほう)な処刑を判決され、身代わりの死を死
に、そしてご自身の体をはじめに、死からの復活によって、すべてのものを新しく、完璧に、輝
(かがや)かせるプロセスを始められたお方です。

もしあなたがこのことを信じていない場合、これが真実であって欲しいとだけでも願い始めてほしいです。私は今日、これが真実であることをあなたに伝えたい。それを信じれば、あなたの人生は大きく変わるでしょう。信じてください。

祈りましょう